

事業の必要性および成果目標の設定のために事前評価を実施し、借款契約締結後に「事業事前評価表」を公表しています。

## 事前評価の概要

当行では、2001年度以降に審査（アプレイザル）が行われたすべての開発事業を対象として事前評価を実施し、借款契約締結後、「事業事前評価表」を公表しています。事前評価は、事業の必要性や、効果、実施計画等の確認に加えて、定量的な指標を

用いて成果目標を設定し、今後の評価計画を明確にするものです。また、「事業事前評価表」として公表することにより、説明責任を果たし、開発援助業務の透明性の向上を目指しています。事前評価は、事業の質の向上に大きな役割を果たしています。

### 事業事前評価表を公表した事業（2006年度）

国名	事業名
インドネシア	開発政策借款(3)
	インフラ改革セクター開発プログラム
	ジャカルタ都市高速鉄道事業(E/S)
	国有電力会社発電業務改善事業
	プサンガン水力発電所建設事業
	北西スマトラ連系送電線建設事業
	ジャワ南線複線化事業(3)(E/S)
	ハサヌディン大学工学部整備事業
	ジョグジャカルタ特別州ICT活用教育質向上事業
	貧困削減地方インフラ開発事業
	国土空間データ基盤整備事業
	アチェ復興事業
フィリピン	パッシグマリーナ川河川改修事業(2)
中国	貴州省環境整備・人材育成事業
	内蒙古自治区フフホト市大気環境整備事業
	雲南省昆明市水環境整備事業(1)
	人材育成事業(遼寧省、河北省、海南省)
	河南省植林事業
	吉林省吉林市環境総合整備事業
	黒龍江省ハルビン市水環境整備事業
	広西チワン族自治区玉林市水環境整備事業
	雲南省昆明市水環境整備事業(2)
	寧夏回族自治区水環境整備事業
	新疆ウイグル自治区地方都市環境整備事業(1)
	四川省地方都市水環境整備事業
	安徽省地方都市水環境整備事業
	吉林省松花江流域生態環境整備事業
	内蒙古自治区フフホト市大気環境改善事業(2)
カンボジア	メコン地域電力ネットワーク整備事業(カンボジア成長回廊)
ベトナム	第5次貧困削減支援借款
	ギソン火力発電所建設事業(1)
	オモン火力発電所及びメコンデルタ送変電網建設事業(4)
	ホーチミン市都市鉄道建設事業(ベンタインスオイティエン間)
	南部ピンズオン省水環境改善事業
	ピンフック省投資環境改善事業
	地方部インターネット利用拡充事業
	ベトナム北部国道交通安全強化事業
	南北鉄道橋梁安全性向上事業(2)

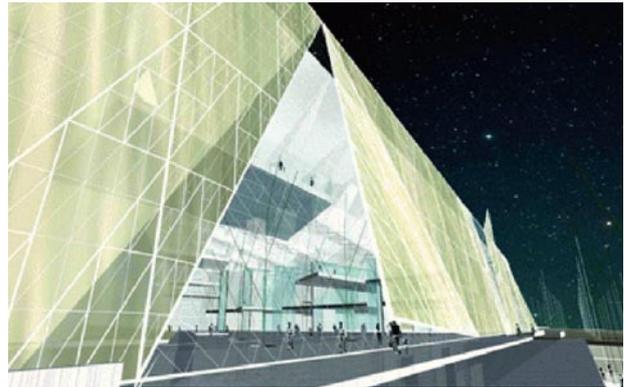
国名	事業名
ラオス	第2次貧困削減支援オペレーション
スリランカ	貧困緩和と地方開発事業
	大コロombo都市圏交通整備事業 水セクター開発事業
バングラデシュ	送電網整備事業
	通信ネットワーク改善事業 カルナフリ上水道整備事業
パキスタン	インダス・ハイウェイ建設事業(3)
	ダドゥークズダール送電網事業
インド	バンガロール配電網設備高度化事業
	ハイデラバード都市圏送電網整備事業
	デリー高速輸送システム建設事業(2)
	ビジャカバトナム港拡張事業
	アンドラ・プラデシュ州灌漑・生計改善事業
	トリプラ州森林環境改善・貧困削減事業
	グジャラート州森林開発事業(2)
	ケララ州上水道整備事業(2) アグラ上水道整備事業 アムリトサル下水道整備事業 オリッサ州総合衛生改善事業
モルディブ	モルディブ津波復興事業
エジプト	環境汚染軽減事業 大エジプト博物館建設事業
ペルー	灌漑サブセクター整備事業
ケニア	ソンドウ・ミリウ／サンゴロ水力発電所建設事業
タンザニア	第4次貧困削減支援借款
	アルーシャー・ナマンガー・アティ川間道路改良事業
チュニジア	ジェンドゥーバ地方給水事業
	国営テレビ放送センター事業
	南部オアシス節水農業支援事業 民間投資支援事業
ナミビア	ルンドゥー・エルンドゥ間道路改善事業
モザンビーク	モンテペエスーリシガ間道路事業
モロッコ	河川流域保全事業
	都市環境改善事業 下水道整備事業(2)
AFDB (アフリカ開発銀行)	アフリカの民間セクター開発のための共同イニシアティブの下での民間セクター支援融資

## エジプト「大エジプト博物館建設事業」

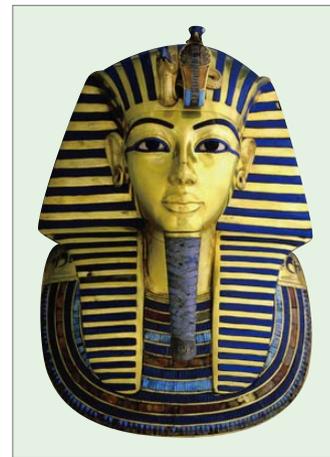
エジプトでは、観光産業がエネルギー輸出、スエズ運河収入、海外労働者送金と並ぶ四大外貨収入源の一つであり、経常収支の黒字化を担う重要産業として位置づけられています。特に、歴史的文化遺産を有効に活用することは、観光国としての同国の魅力を高めるうえで取り組むべき最も重要な課題の一つです。2006年度に当行が借款契約を締結した本事業は、三大ピラミッドが位置するギザ地区(首都カイロ南西15km)に、老朽化したカイロ博物館(1902年に開館)に代わる博物館を新たに建設することにより、同国の歴史的文化遗产の保存修復・展示・研究・教育等の諸機能の強化をはかり、観光産業の発展と雇用機会の創出をはかることをめざしています。事前評価では、本事業がエジプトの第五次社会経済開発5カ年計画(2002-2007年)に基づくきわめて重要な国家プロジェクトであることの確認や、本事業の効果を定量的にはかるための「観光客入場者数」「入場料金収入」「文化財修復件数」といった指標について検証を行いました。

### 事前評価で設定された評価指標一覧

指標名	目標値 (2013年[事業完成2年後])
観光客入場者数(対象施設内)(人)	5,085,000
入場料金収入(対象施設)(百万ドル)	30.3
文化財修復件数(件)	5,000



完成予想図  
写真出典: [http://www.gem.gov.eg/index/arch\\_competition/index.htm](http://www.gem.gov.eg/index/arch_competition/index.htm)



展示予定の黄金のマスク

## インドネシア「ハサヌディン大学工学部整備事業」

周辺諸国の台頭や経済自由化の進展により海外輸入品との競争が激化し、グローバル化の進展による輸出拠点としての重要性が増加するインドネシアでは、産業の競争力強化が求められているなか、技術者等の人材不足が問題となっています。また、ジャワ島を中心とする西部地域と東部地域の開発格差が大きく、東部地域は、農業、漁業、海洋の資源等を有するものの、技術や情報、インフラ網、人材の不足等により開発が遅れた地域が多く存在します。今後、現地での加工能力を向上させ付加価値を高めるなど、産業振興を進めるためにも、これを担う人材の育成が急務となっています。

本事業は、同国東部に位置する南スラウェシ州のハサヌディン大学において、工学部の整備・拡張およびフェローシップ・リサーチプログラム(教員の日本留学・国内進学・共同研究)などを実施することにより、工学系人材育成の強化と研究能力の向上をはかるものです。事前評価では、本事業の効果

を定量的にはかるための「工学部学生数」、「学生一人当たり実験実習用教室面積」、「教員の修士・博士学位保有率」といった指標について検証を行いました。

### 事前評価で設定された指標一覧

指標名(単位)	基準値 (2005年)	目標値 (2018年[事業完成5年後])*
工学部学生数(学部・修士・博士)(人)	学部 3,871	学部 4,560
	修士 298	修士 1,060
	博士 20	博士 204 **
教員一学生比(教員:学部学生数)	1:13	1:10 **
学生1人当たり実験実習用教室面積(m <sup>2</sup> ) (実験室面積/学生総数)	1.9m <sup>2</sup>	6.6m <sup>2</sup> **
教員の修士・博士学位保有率(%)	69%	85% **
成績平均点(GPA)(ポイント)(学部)	3.04	3.3
学部生の要卒業年数(年)	5.2	4.5
卒業後6カ月以内の就職率(%)	70%	100%
教員の研究論文発表数(年間1人当たり)(数)	0.7	1以上

\* 全学生が新キャンパスで一年次から入学する年を目標年とした。  
\*\* 事業完成2年後に目標値達成を予定。